

## 第 26 回スバズムシンポジウム世話人会議事録

平成 22 年 4 月 15 日 7:00-8:00

ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING 3F 桐の間

1. 訃報 顧問 半田 肇 先生（黙禱）
2. 第 26 回会長挨拶  
富山大学 遠藤 俊郎 教授がご挨拶された。
3. 事務局報告（九州大学 佐々木 富男 教授）  
会員状況報告・会計報告がなされ承認された。  
会費納入率を上げるための方策がない。
4. 第 25 回開催報告  
山口大学 鈴木倫保教授より収支が報告され承認された。
5. 新顧問選出
  - ・佐野 公俊 先生（藤田保健衛生大学）
  - ・安井 信之 先生（秋田県立脳血管研究センター）
6. 新世話人選出
  - ・石川 達也 先生（秋田県立脳血管研究センター）
  - ・大須賀 浩二 先生（愛知医科大学）
  - ・小笠原 邦昭 先生（岩手医科大学）
  - ・加藤 庸子 先生（藤田保健衛生大学）
  - ・木内 博之 先生（山梨大学）
  - ・濱田 潤一郎 先生（金沢大学）
7. 次期会長挨拶  
第 27 回 (Stroke 2011) 会長 帝京大学 中込 忠好 教授がご挨拶された。
8. 次々期（第 28 回）会長の選考  
第 28 回 (Stroke 2012) 会長に産業医科大学 西澤茂 教授が推薦され承認された。  
参考：Stroke 2012  
第 37 回 脳卒中学会会長 九州大学 佐々木富男教授  
第 39 回 脳卒中外科学会会長 長崎大学 永田泉教授
9. 優秀論文表彰の件  
対象論文：英文  
年齢制限：なし  
表彰件数：基礎より一篇、臨床より一篇を基本とするが、論文数や内容によっては「該当なし」のこともありうる。  
審査委員：毎年新たに選出する。選考の準備として、論文の渉獵や会員歴との照合などについては、今年同様事務局が行う。

応募形式：会員であることを条件に広く公募を行う。NMC 紙面にて広報してもらうことを片山教授より承認頂く。公募していることが浸透するまでの当面の間、応募論文に加え、事務局にて渉猟した会員の論文も選考対象とする。

#### 10. ホームページの作成について

スパズムシンポジウムのホームページを作成する。岡山大学伊達教授にホームページの作成に関し御意見、御指導頂く。ホームページは脳神経外科学会のホームページにリンクし、学会を広く認識してもらう。

#### 11. その他審議事項

【エリル動注療法の有効性に関する調査の提案（発議者：松居 徹 教授）】

発議：エリル動注療法の有効性に関する科学的根拠は十分ではなく、ガイドラインでも強くすすめられているわけではない。しかし、一般的に多くの施設で有益な治療として実施されていることが多い。スパズムシンポジウムとしてエリル動注療法の有効性を支持することにより、最終的に厚労省に申請し正式な治療手段であることを認可してもらえるようになると良い。

意見：

- ・エリル動注の施行状況、有効性、合併症などの全国調査により、実態を把握する。
- ・治療の正当性を学会レベルで authorize することは重要。訴訟などにおいても重要。次期学会長中込教授と松居教授が中心となり、次期スパズムシンポジウムを目安に、全国的なアンケート調査によりデータをまとめる（佐々木教授）。
- ・認可に際しては、疾患が重篤であること、海外のガイドラインに掲載されていることなどが有効な条件となる。（中込教授）
- ・エリルの有効性調査により、その他の動注薬剤を使用している施設に対し、エリル以外の動注薬剤を推奨しない学会勧告となってしまう可能性がないか？（大熊教授）
- ・エリルの「動注」という手技が認められ、かつエリルの適応外治療が認められることが必要。認可においては、疾患の重篤性に加え治療の需要が高いことが重要である。製薬会社がエリルの動注療法を望んでいるかどうかも大事な問題。（滝教授）
- ・鳥取大学渡辺教授と山口大学鈴木教授により、一度エリル動注の使用状況のアンケート調査を行ったことがあり、おおよその使用状況は把握できている。その時に製薬会社に動注療法に対する支持を掛けあったが、会社としては、適応外使用のため支持できないとの返事であった。（渡辺教授）

この案件については、まず、全国規模の調査を行い、エリル動注の実態を把握して行く方針に決定した。

# 出席者（敬称略）

佐 富 橋 佐 遠 佐 鈴 中 渡  
藤 永 本 野 藤 々 木 込 辺  
梯 信 公 俊 木 倫 忠 高  
章 二 夫 俊 郎 富 保 好 志  
男

安井 信之

大熊 洋輝

塩川 芳昭



斎藤 延人

太田 富雄

永廣 信治

小川 彰

永田 泉

糟 平 藤 片 滝 佐 伊 西 松  
谷 島 井 山 和 々 達 澤 居  
英 清 容 和 木 勲 茂 徹  
俊 豊 孝 一 郎 達 也